



ミナセンなかどおり通信

2023年3月12日

TEL 080-5732-3942
fax 024-953-2895
nakajiryochi@rainbow.plala.or.jp

福島第一原発事故の始まりから12年、私たちは今も原子力緊急事態の中にいます。廃炉の最終形態も法的に定義されず、1号機の原子炉圧力容器の土台＝ペDESTALの倒壊の危険性すら指摘される中で、被ばくを伴う困難な事故収束作業が続いています。政府はたった12年で原発事故の反省や教訓を手放し、原発の再稼働、リプレイス、運転期間の実質延長など原発推進政策に舵を切りました。また、復興の名のもとに、軍事転用可能な技術開発などを行う福島国際研究教育機構に巨額の予算をつぎ込み、さらに軍備拡大のために、復興税を防衛費に転用しようとしています。

事故後増え続ける小児甲状腺がんや災害関連死、切り捨てられる避難者、放射性物質汚染防止法や廃炉措置に関する法の未整備など、問題は山積しています。タンク貯蔵汚染水の海洋放出問題も重大な局面を迎えています。政府と東京電力は『関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない』という約束を反故にして、今夏にも海洋放出を実施するために、多額の費用をかけメディアを使って安全宣伝を行っています。さらに除染によって集められ、中間貯蔵施設に運び込まれた汚染土を「再生資材」と名を変えて、全国へ拡散しようとしています。

私たちの選択が、すべての人々、とりわけ子どもたち、生態系、そして未来の世代に対して、原発事故による負荷を可能な限り小さくすることを真剣に考え、最善を尽くす責任を自覚し、以下の点を呼びかけます。

- 1.核廃棄物を大量に生み出し、戦争や地震によって破局的な事故を起こす危険性のある原子力発電を、次世代のエネルギーとして選択しません。
- 2.世界中の核被害者の犠牲を忘れることなく、内部被ばく、外部被ばくの可能な限りの低減をめざし、被ばく防護方策をとることが必要と考えます。被ばくに脆弱な人に対する特別の支援と、被ばくを伴う作業に従事する人への徹底した被ばく防護を求めます。
- 3.放射性物質を環境中に投棄することに反対し、厳重な管理を求めます。
- 4.人類が核を使用した事を深く反省し、未来世代が、拡散され残された夥しい放射性物質によってこれ以上健康被害や環境汚染にさらされないように、賢明な選択ができる議論の場に参加していきます。
- 5.放射性物質を発生させてきた事業者、原子力を推進してきた国の責任が果たされるよう求めていきます。
- 6.これらを達成するために、政策決定・実施・検証への市民の参画や、情報公開、公正な手続き、透明性の確保など、民主主義的プロセスの実現を求めていきます。
- 7.原子力を利用することで生み出される危機を回避するために、世界の平和がなによりも重要であることを認識し、日本の軍備拡大に反対し、日本が武力によらない紛争解決に貢献することを求めていきます。

私たちは、広大な宇宙に抱かれる奇跡の星、地球に生きています。この有限な美しい星が、これからも豊かな生命を育んでいくことができるよう、100年、200年、300年後の未来の人々が幸せに生きることができるよう、私たちは対立や分断を乗り越え、協力して、これからも努力し続けることを宣言します。

2023年3月12日 福島原発事故12年 拡散する放射性物質の行方と私たちの未来アピール(抄)

原発のない福島を！県民大集会 2023

3月19日(日)午後1時開会 パルセ飯坂

発言 菅野哲さん(飯館) 菅野正寿さん(二本松)
七海菜里さん(ソーシャルスクエアクルー)
若者代表(第25代高校生平和大使など)
さようなら原発1000万人アクション

原発回帰 GX 法案、年金医療費等請願審査
3月15日(水)10時～郡山市議会委員会室

第39回ミナセンなかどおり相談会

3月20日(月)10時 郡山医療生協ホール

